

平成 26 年度第 2 回市民協働推進委員会会議概要

- ◎日 時 : 平成 26 年 5 月 24 日 (土) 13:00~17:30
- ◎会 場 : 市役所 1 号館 3 階会議室
- ◎出席委員 : 名和田委員長、宇田川副委員長、伊藤委員、近藤委員、田辺委員、寺田委員、渡辺委員、小林委員、大木委員
- ◎事務局職員 : 井岡自治人権推進課長、鴨志田主査、小田主査補、尾形主事
- ◎傍聴者 : 0 名

◎議題

- (1) 平成 26 年度市民協働事業 (市民提案型) について

事務局：会議に入る前に 4 点程ご報告があります。1 点目として、本日の会議は市民協働事業 (市民提案型) の審議 (評価・意見調整等) を除き公開となります。2 点目として、昨日、3 番目にプレゼン予定であった長いすの会より、プレゼンへの参加人員の確保が困難となったため、事業申請を取り下げたいとの連絡がありましたので、本日は 5 団体について審議を行うこととなります。3 点目として、本日の議事は次第に沿って進めていきます。なお、時間配分につきましては、5 分間のプレゼンテーションと 30 分間の質疑応答で、1 団体につき 35 分を目安に進めていきますので、円滑な議事の進行にご協力をお願いします。最後に、現在、傍聴人はおりませんが、いらっしゃった場合のご対応につきましては、委員長からご指示を仰ぎたいと思います。

1. 開会

(省略)

2. 委員長あいさつ

委員長：本日は市民協働事業 (市民提案型) について審議を行う。委員の皆様のご協力を頂きながら円滑に進めていきたい。

3. 議事

委員長：議事に入る前に、私から何点か確認及び報告をさせて頂く。1 点目として、現在、傍聴者はいないが、来た場合の対応については私から指示をする。2 点目として、先程事務局からも報告があったが、本日の会議は市民協働事業 (市民提案型) の審議を除い

て公開となる。3点目として、本日のタイムスケジュールは、1団体につき、5分間のプレゼンテーションと30分間の質疑応答を予定しているため、円滑に議事を進行できるように各委員のご協力をお願いしたい。4点目として、事業の採点は事業別評価票に基づいて行うため、基本的に全ての項目にご記入をお願いしたい。事業別評価票は審議に入る前に一度回収し、集計終了後、審議の際にお返す。5点目として、発言をする際は挙手でお願いしたい。最後に、本日の委員会は委員定数10名の内9名の出席があり、過半数以上の出席があるため成立していることをご報告いたします。

(1) 市民協働事業（市民提案型）プレゼンテーション及び質疑応答（公開）

①NPOいんば（屋形船で印旛沼体験）

委員長：まずは5分以内で事業内容のご説明をお願いします。

NPOいんば：今年度で3年目の市民協働事業申請となる。今回は、千葉県内水面研究所から土日は外してほしいという要望があり、日程を平日にした。親子での参加という面から今までは土日で行っていたが、小学校の夏休み期間中でもあるため、7月30日（水）に設定をした。教育委員会にお願いをし、7月上旬頃に市内23小学校の3、4年生に募集チラシを配布する予定である。去年は昼食にカレーを作ったが、今年度は募集人数を増えたこともあり、用意が難しいためお弁当の持参をお願いすることになった。船を2艘×2回に増やし、参加人数を増やした。内水面センターについても人数の関係で2回に分けた。当日のスケジュールについては、午前中に内水面研究所で学習会を行い、その後、印旛沼へ移動し、昼食を取った後、午後印旛沼の見学を行う。また、船上での説明を行うため、2名の方に講師をお願いしている。子どもだけの参加もあるため、今年度もバスをチャーターし、時間に合わせて移動する。最後に、俳句を提出してもらい、10月の印旛沼体験フェアで優秀者の表彰を行う予定である。JR佐倉駅の市民ギャラリーへ活動内容や俳句の展示することも考えている。昨年、取材頂いた地域新聞社に、今年も取材のお願いをする予定である。

委員長：これから質疑応答に入る。

委員：屋形船を使用する以上、数を増やしたとしても参加者が限定されてしまう面は否めないと思うが、限定的な分、参加者から会費を頂くことは検討しないのか。

NPOいんば：船代、バス代、資料代の経費があるため、会費を集めることも考えたが、この3年間同じ形で進めてきたため、今年度も同様に無料とした。今後、企業等からの寄付も含め、会費を集めることも検討をしている。

委員：収支予算書にその他として152、160円計上されているが、この具体的な内容は。

NPOいんば：会員からの年会費や寄付や他の事業の収入を充当している。

委員：印旛沼が飲料水として水質ワーストワンである原因がなぜなのかを考える時間が含まれているのか。また、ワーストワンから抜けるためにNPOいんばが行っている活動のPRを行っているのか。印旛沼をきれいにする為にできることを親子で考える時間は設けてあるのか。

NPOいんば：水質がワーストワンである理由は講師の先生からご説明を頂いている。また、水を浄化することの大変さを実感させ、水を汚さないようにすることの大切さを教えることを通して、親子で考えてもらう機会にしている。いずれにしても、学習会そのものが親子で印旛沼に考えてもらう良い機会になると考えている。

委員：参加者の声を聞き、参加者同士の意見交換の場があれば、より理解も深まると思う。

NPOいんば：アンケート等で参加者から感想や意見を集めることを検討する。

委員：公益性の観点から限られた人数で行うだけでなく、日常生活の中で印旛沼に興味を持ってもらえるような活動に結び付けてほしい。

NPOいんば：他の市町村では、教育委員会と連携して学校のカリキュラムに組み入れ、年に数回活動を行っているという話を聞いたことがあるので、そのような形で活動できるように、今後も続けていく。

委員：印旛沼の浄化活動をしている団体はあるのか。

NPOいんば：印旛沼環境団体連合会に19団体が加盟しており、私たちもその内の1つである。私たちの団体としては、浄化活動そのものよりも啓蒙活動や子ども達に知ってもらう機会を提供することを中心に活動している。

委員：子ども達に現状を伝えるだけではなく、解決方法もある程度示していかなければならないと思う。我孫子にある手賀沼の水質が改善したのも、地域住民の協力があつたからである。参加者で意見交換をし、結論を出していかなければならない段階に来ている。

委員長：屋形船での印旛沼体験事業はNPOいんばで行っている全事業の何割を占めているのか。

NPOいんば：予算、人員等と言うと約半分である。その他の事業としては、環境フェアや水草の育成等がある。

副委員長：今年で3年目となるが公益性という視点で、今回特に気を付けた点はあるか。また、俳句を募集するとあるが、どのような方法で周知しているのか。

NPOいんば：優秀な作品に対しては、環境フェアで表彰する予定であるが、作品の公表については個人情報の問題もあるため、どのようにするかは検討中である。公益性の観点から気を付けたことは、募集人数を増やした点と市民ギャラリーの利用による周知を図る点である。

副委員長：子ども達が作った俳句を上手く活用できないかという観点から先程の質問をした。

NPOいんば：俳句を標語として活用することも考えている。

委員：俳句と一緒に標語も募集してはどうか。また、リピーターの方の対応策はあるのか。

NPOいんば：昨年はリピーターの方が少なかったため、特に考えていない。

委員：収支予算書の謝礼に2万円×2人とある。昨年度は1万円×3人であったが、これは2講座行うということか。

NPOいんば：2回船を運航するので、このような予算になった。

委員：展示用パネル等消耗品は市民ギャラリーでの展示に使用するのか。

NPOいんば：そうなる。

委員：俳句だけではなく、感想文やアンケート等も検討してみてもどうか。

NPOいんば：今後、検討していきたい。

委員長：他に質問等がなければ、NPOいんばの質疑応答は以上で終了する。

②西志津お囃子友の会（青森ねぶた囃子の習得）

委員長：5分以内で事業内容のご説明をお願いします。

西志津お囃子友の会：当会は2002年に結成された団体で志津地区を中心に現在33名で活動を行っている。夏から秋にかけて様々なイベントに参加し演奏を行っているが、新たにねぶた囃子を習得することを目的として今回申請をさせて頂いた。現在は、オリジナルや他で演奏されているお囃子をレパートリーにしているが、これらの曲ではどうしてもお客さんが聞いているだけになってしまう。そこで有名なねぶた囃子をレパートリーに加えたいと考えている。ねぶた囃子は掛け声や踊りがあり、お客さんを巻き込んだ一体感のある演奏が期待できる。東京の品川区にねぶたの継承を行っている団体があり、その団体の方を講師として招き、教わりたいと考えている。通常のお囃子とは異なる楽器を使用するため、楽器の購入費用や講師謝礼を中心に予算を計上した。スケジュールとしては、毎月の練習とねぶた祭りへの視察と参加、3月の河津さくら祭りでの披露を予定している。

委員長：聴衆を巻き込んだ演奏という着想は理解したが、それでなぜねぶたになるのか。また、聴衆を巻き込むための具体的な策はあるのか。

西志津お囃子友の会：ねぶた以外にもよさこいや阿波踊り等も有名ではあるが、初見ですぐ踊れるような簡単なものではない。ねぶたは動作が簡単であるため、参加がしやすいと考えた。また、掛け声や動きを簡単にレクチャーした後に演奏をすることによって、より一体感を出せるようにする。

委員：申請書を見ると自治会や地区社協、まちづくり協議会からも支援を受けているが、行っている活動はどれも同じ様に思える。そのあたりの区別はできているのか。

西志津お囃子友の会：私たちはボランティアで活動している団体であるため、会費も必要最低限に抑えている。太鼓のメンテナンスやイベントでの演奏時の運搬費等、様々な経費が掛かる。また、演奏に対する謝礼等も頂いていないこともあり、自治会やまち協からの支援がないと、今の活動を維持できない。

委員：それぞれで行っている活動の関連性や違いを聞きたい。

委員長：まちづくり協議会にも市から補助金を出しており、二重補助になる恐れがある。

活動が明確に区別できているのか確認をしたい。

西志津お囃子友の会：まちづくり協議会の助成金については、普段行っている活動に対して使用している。今回は、それとは別に、新たにねぶた囃子の習得の為の事業申請である。この事業に対しては、まちづくり協議会のお金は使わない。

委員：今回の申請をすることについて、西志津さくら自治会に承諾はとっているのか。

西志津お囃子友の会：正式な承諾は得ていない。

副委員長：公益性のある事業だとは思いますが、収支報告を見ると自治会や地区社協からもお金が出ている。事業と事業費で明確な線引きをした方が良い。

委員：ねぶた習得のための申請とのことだが、今年度は習得がメインであって披露するのは3月の河津さくらまつりが初めてということか。

西志津お囃子友の会：そうなる。

委員：周知されていて、動きも簡単で分かりやすいからねぶたにしたというのは理解できた。最初に書類を見た印象では、色々と重なっているように感じたが、ねぶたの習得のための事業ということであれば問題ないと思う。1年かけて習得した後に、どのように広めていくのかという点を聞きたい。

西志津お囃子友の会：他の地域では小学校の授業で教えている所もある。機会があれば積極的に広めていきたいと考えている。

委員：公益性の観点からも積極的に広めてほしい。

委員：なぜ、佐倉で青森のねぶたを選んだのか。わかりやすく覚えやすいという話であったが、西志津お囃子友の会は実力があるので、オリジナルの踊りを考えても良いのではないか。なぜ、ねぶたにこだわるのか。

西志津お囃子友の会：現在のレパートリーでは盛り上がりつつも、せいぜい手拍子で終わってしまう。掛け声や踊りを前提とした曲がないため、手早く参加しやすいという考えで、ねぶたにした。なぜ、佐倉で青森ねぶたかと言われれば、明確な理由はない。

委員：佐倉には佐倉音頭もあるが、そのあたりは考えていないのか。

西志津お囃子友の会：佐倉音頭を演奏することは考えていない。

副委員長：色々と活動されていることは素晴らしい。地域活性化の為に新たな曲を習得し、広げていくことは良い事だと思う。

西志津お囃子友の会：この前の3月の河津さくら祭りにねぶたの演奏を行っている団体を招待した。その時に実演して頂いたときは、インパクトがあり大変盛り上がった。活動を重ねて定着していけば、より盛り上がるのが期待できる。

委員長：実施体制に2名しか記載がないが、会として意思統一は図れているのか。

西志津お囃子友の会：図れている。

委員長：他に質問等がなければ、西志津お囃子友の会の質疑応答は以上で終了する。

③人づくり街づくり環境づくり（自然の中の子育ち支援活動「もう一つの学校」）

委員長：5分以内で事業内容のご説明をお願いします。

人づくり街づくり環境づくり：主な事業内容としては、自然の中で子どもを遊ばせるということである。可能であれば、そこに地域や保護者の方にも関わってもらう。もうひとつの学校と名付け、学校での知識の教育の他に、体験から学ぶ分野もある。昨年からは幼児も対象にしている。以前は何もしなくても、子どもは上手く育っていたが、今はそうはいかない。これからの子どもは温暖化の問題や国際化にも対処していかななくてはならないが、そうするためには子どもの頃の経験が大事になると考えている。これからは人口減少社会になっていくが、人口の減少を防ぐには子育て世代を呼び込む必要がある。待機児童の問題もある。これからの地域を担う子供を育てていかなければならない。自然の中で遊ぶことによって社会性、人間性を学び、行動基準や判断基準を培っていく場を提供していく。

委員：現代アート作家を呼ぶことと今説明して頂いた自然体験の内容が結びつかないので、ご説明をお願いしたい。

人づくり街づくり環境づくり：この方は、子どもがどのように育っているのかを絵を描かせて判断する。絵を全面に押し出している訳ではなく、自然の中で一切の指導をしてい

ないということを進めている。

委員：絵を見て、子どもにどのように指導するのか。

人づくり街づくり環境づくり：指導はしない。きれいな色で自由に描くことができれば、子どもが健全に育っていると判定する。

委員：言葉ではなく絵で対話するということか。

人づくり街づくり環境づくり：絵で子どもの状況を把握し、保育者から保護者にそれを伝える。

委員：今回の事業申請の1番の目的は先生を呼ぶことか。

人づくり街づくり環境づくり：支援が必要かどうかという観点から事業申請書を作成したため、そう見えるかもしれないが、1番の目的は自然体験である。

委員：どこで活動しているのか。

人づくり街づくり環境づくり：東邦病院の近くで活動している。

委員：申し込み方法等も含めてどのように公益的な事業にしていくのか。

人づくり街づくり環境づくり：メールでの通知や、公民館、広報等での周知を考えている。また、チラシを配ることも考えている。

委員：会員以外も参加できるのか。

人づくり街づくり環境づくり：会員でなくても誰でも参加できる。

委員：申し込みはどのようにするのか。

人づくり街づくり環境づくり：メールや電話で受け付けている。

委員：色々なプログラムがあるが、子ども達が自分自身で考えるようなプログラムはあるのか。

人づくり：プログラムはあるが、子どもが自主的にやるのは難しい。今年は材木を用意して基地づくりを考えている。

委員：技術的な支援を希望されているが、子育て支援課に支援求めることは考えていないのか。

人づくり街づくり環境づくり：15年間活動をしてきた経験やノウハウがあるので、特に考えてはいない。

副委員長：多角的な視点から解決したい課題を記入されているが、それに対する解決方法に矛盾を感じる。通常活動の連続性が重要だと思うが、スケジュールを見ると参加人数にばらつきがあり、参加の連続性が確保されていない。申請書に記載されている課題を解決するためには、活動や参加の連続性を考えた方がよい。

人づくり街づくり環境づくり：私も同感である。自然に対する価値観が変わってきている。連続して参加しているのは2家族ぐらいである。

副委員長：協働事業として申請するのであれば、そのあたりの矛盾を少しでも解消しないとけないと思う。25年度の収支決算書を見ると、収入の欄に助成補助金653,727円とあるが、これはどのような補助金か。

人づくり街づくり環境づくり：25年度は施設をつくるために日生や夢屋基金等の財団から助成を受けた。

副委員長：補助金の内容の欄に市や社協と記載があるので、誤解を招いてしまう。

人づくり街づくり環境づくり：他の書式を流用した為、誤解を招いてしまった。

副委員長：この会は寄付金が主な収入になっているのか。

人づくり街づくり環境づくり：寄付金と助成金が主な収入である。

副委員長：今までの経験がこの事業にどのように活かされているのか。

人づくり街づくり環境づくり：実際のプログラムには活かされている。

委員：年間スケジュールに講演会開催とあるが、この講演会はどのような方を対象としているのか。

人づくり街づくり環境づくり：子育て支援課とも話をしているが、指導法として取り入れるということではなく、まずは知ってもらうことを目的としている。良ければ活用してほしいということである。幼稚園や保育園の職員や一般市民を対象に考えている。

委員：遠方から講師を呼ぶのであれば、たくさんの方が参加できる講演会にしてほしい。

委員：講演会は広く周知してほしい。プログラムを経験した子ども達が成長してスタッフとして戻ってくることも考えているのか。

人づくり街づくり環境づくり：考えてはいるが難度が高い。小学校高学年以上になると中々来てくれない。

委員：もう一つの学校を続けてきた成果はでているのか。

人づくり街づくり環境づくり：時々、参加した子供の母親から後日談を聞くことはあるが、実際の成果は把握しようがない。

委員：今回、助成金の対象にならなかった場合は、その金額については寄付で賄うのか。

人づくり街づくり環境づくり：その予定でいる。

委員：スケジュールに基地や川遊びとあるが基地は既に作ってあるのか。

人づくり街づくり環境づくり：作ってある。

委員：天体望遠鏡はいくらぐらいの物を使用するのか。

人づくり街づくり環境づくり：2千円程度の物を使用する。

委員長：他に質問等がなければ、人づくり街づくり環境づくりの質疑応答は以上で終了する。

④ベコちゃん（「佐倉井」普及活動）

委員長：5分以内で事業内容のご説明をお願いします。

ベコちゃん：団体名は千成に以前あった幼児交通安全教室「ベコちゃんクラブ」からとった。そこに通っていた幼稚園児の母親達で食をテーマに活動を続けてきた。2年前に佐倉城級グルメ大賞コンテストに応募し、佐倉井で優勝した。それ以降は佐倉井を中心とした活動を続けてきた。佐倉井は佐倉のご当地グルメで、佐倉産のコシヒカリ、佐倉豚、大和芋に佐倉産のゆずこしょうのたれで味付けした料理である。佐倉の歴史は有名だが、食の部分ではあまり有名ではない。佐倉井を通して佐倉の食をPRし、佐倉を有名にしたい。地場産業の活性化にも繋がれば良いと考えている。また、豚のラードを活用し佐倉とんすこうというお菓子も作った。とんすこうはふるさと広場や小川園での販売を検討している。着ぐるみを使ったPRも考えている。

委員長：着ぐるみは手作りか。

ベコちゃん：全て手作りになる。

委員：お店はどのくらいの頻度でやっているのか。

ベコちゃん：今年の3月までは毎週水曜日と木曜日にやっていたが、4月からは月に6回程度で考えている。

委員：月に6回しかできないのはどうしてか。

ベコちゃん：2人でやっているためである。

委員：カフェベルタではお店の人が料理しているのか。

ベコちゃん：私たちがお店に行き、作っている。

委員：作り方を広めていければ良いと思う。

ベコちゃん：レシピを広げていき、佐倉の色々なお店で提供できれば良いと考えている。

委員：地域の飲食店との連携や料理教室等で広げていってはどうか。

委員：衛生面の問題は全てクリアしているのか。

ベコちゃん：クリアしている。

委員：予算にシーラー使用料とあるが、シーラーとは何か。

ベコちゃん：とんすこうの個包装に封をする機械である。

委員：佐倉井をどのように広めていくのか。

ベコちゃん：10月の秋祭りと11月の時代まつりに出店し、PRを行う。この他にも要請があれば可能な範囲で出店し、PRを行う。

委員：他の地域では、それぞれのお店が独自でご当地グルメのPRを行っている所もあるが、佐倉井はこのような方法は考えていないのか。

ベコちゃん：様々なお店で佐倉井が提供できるように、地域のお店に声掛けをしていく。

委員：カフェインはどのようなお店か。

ベコちゃん：カフェインはコーヒー専門店として平日営業している。私たちは厨房をお借りして、水曜日と木曜日のお昼に佐倉井の提供をさせて頂いている。

委員：カフェインで提供しているのは、佐倉井ととんすこうだけか。

ベコちゃん：佐倉井と季節の野菜を使った野菜プレートをセットで提供している。

副委員長：スケジュールに人数の記載がないが、2人が中心に活動しているのか、それとも他のメンバーとも分担して活動しているのか。

ベコちゃん：基本的には2人だが、イベント等では他のメンバーにも協力をしてもらいながら活動している。

副委員長：スケジュールをみると、とんすこうをメインにして佐倉井もPRしていくと見受けられるが、この認識で良いか。

ベコちゃん：佐倉井を中心に考えているが、とんすこうの方がお店に置いてもらいやすく、売しやすいためスケジュールにも年間を通して記載している。佐倉井は手間もかかり、提供できる回数も限られてしまうが、メインは佐倉井である。

副委員長：とんすこうは以前からあったが、今年から本格的にPRしていくということか。

ベコちゃん：佐倉井をつくった時に発生するラードでお菓子をつくり、佐倉井と一緒に提供していたが、評判が良かったため販売するようになった。

委員：カフェインとはどのような関係か。

ベコちゃん：城級グルメコンテストに応募する際に、カフェインで打ち合わせをしていた。カフェインのマスターもコンテスト当日に会場に来て頂いた。コンテスト後に、マスターから提案を頂き、週2回カフェインで提供するようになった。

委員：収支予算を見ると使用料が14万円となっているが、これで採算はとれるのか心配である。

ベコちゃん：天気が悪い日では、客足が悪く使用料だけでなく材料費も賄えない場合もある。

委員：佐倉井を広めるために、作り方を教える料理教室やコンテストを行ってみるのも良いと思う。

委員長：最終的な目標としては、ビジネスとして成立させるという方向性は考えているのか。

ベコちゃん：そこまでは考えてはいない。料理教室は依頼を受けて、何回か行ったことがある。

副委員長：他の地域のイベントで出店するときの調理場所はどうするのか。場合によっては健康管理センター等の調理室を使用できる場合もあるので、検討してはどうか。

委員：佐倉井は冷めても大丈夫なのか。お弁当のような形での提供は可能か。

ベコちゃん：とろろが傷みやすいため難しい。

委員：会員が15名ということだが、より会員が増えるような活動をしてほしい。

委員：佐倉井を広めるならば常にお店を出せるようにした方が良い。

委員長：他に質問等がなければ、ベコちゃんの質疑応答は以上で終了する。

⑤さくら子ども自然塾学童クラブ（さくら子ども自然塾学童クラブ）

委員長：5分以内で事業内容のご説明をお願いします。

さくら子ども自然塾学童クラブ：私がユーカリが丘で経営しているカフェがあり、そこを会場に夏休み期間だけ学童を行うという事業である。カフェを始めた理由も、地域のコミュニティを作りたかったからである。コミュニティカフェというよりは、地域のニーズに合わせて、地域の人たちが色々なことにチャレンジできるようカフェというスペースを提供する。利益追求の為ではなく、月々の経費を支払うためにカフェ経営を行っている。NPOという形式をとっていないのは、NPOだからできるという一般市民の思い込みがあり、そこで線引きされてしまう恐れがあるからである。地域の方にキッチンに入ってもらい、レシピ作りもしている。地域の方を講師に様々な教室を行っている。夏休み期間は子供が学童にいる時間が長く、学童を嫌がる子供もいる。学童も含め、カフェで様々な活動ができれば面白いと思う。国際協力のボランティアを13年間してきたので、そのノウハウも取り入れることも考えている。

委員：カフェスペースで学童しても大丈夫なのか。

さくら子ども自然塾学童クラブ：学童を行う期間はカフェを休業する。

委員：カフェで学童を行うということだが、カフェをやりながら学童をするスペースがあるのか。

さくら子ども自然塾学童クラブ：学童期間中はカフェを土日のみとして平日は営業しないため、スペースは問題ない。また、屋内だけの学童ではなく、屋外での自然体験学習も取り入れていきたいと考えている。

委員：活動期間が夏休み期間中ということだが、子ども15名の学童を29日間行い、自然体験や農業体験等を行うということか。

さくら子ども自然塾学童クラブ：そうなる。色々なプログラムを用意している。

委員：対象が小学生となっているが、現地までの送迎は保護者の方がするのか。

さくら子ども自然塾学童クラブ：送迎は保護者の方にして頂くことになる。

委員：参加費が8万円から5万円とあるが、この金額でも厳しい家庭もある。

さくら子ども自然塾学童クラブ：スタッフの人件費等を考慮すると助成金を頂けたとしても、参加費は5万円が限度である。

委員：単発参加者の利用も考慮しているのか。

さくら子ども自然塾学童クラブ：単発参加者も可能な範囲で受け入れていく。ニーズがあれば、スタッフを増やして、カフェ以外の場所で行うことも考えている。

委員：代表者の永野氏と寺子屋 EDEN との関係を教えてほしい。

さくら子ども自然塾学童クラブ：永野氏は寺子屋 EDEN のオーナーである。

委員：フェイスブックのページに船橋のママ友に向けて永野氏がカフェ EDEN を良い所ですと紹介しているコメントがあるが、これは自分自身でPRしているということか。

さくら子ども自然塾学童クラブ：カフェ EDEN ではなく、別の事を紹介しているコメントだと思われる。

副委員長：この事業をやるにあたって、市の子育て支援課と連絡は取り合っているのか。

さくら子ども自然塾学童クラブ：特に連絡はしていない。

副委員長：事前に連絡をしておくべきであったと思う。

事務局：事前にこちらから子育て支援課には本申請内容について情報提供している。

委員：子ども達の主体性や行動性を引き出すために自然体験、参加型プログラムを多様に実施とあるが、これは講師を呼んで実施するのか。

さくら子ども自然塾学童クラブ：そう考えている。

委員：学童を行うということをどのように周知するのか。

さくら子ども自然塾学童クラブ：ホームページ、チラシ、フェイスブック等で募集をする。

委員：告知のためにチラシを3千枚程作成するとあるが、どこに配布をするのか。

さくら子ども自然塾学童クラブ：フリーペーパーを発行しており、市内のお店等で配布させて頂いているので、そのフリーペーパーに挟む形での配布を考えている。

委員：学校等での配布は考えていないのか。

さくら子ども自然塾学童クラブ：市民協働事業として認められれば、教育委員会の協力を頂き学校へ配布することも考えている。

委員：配布するとしたらユーカリが丘近辺の学校だけになるのか。

さくら子ども自然塾学童クラブ：送迎の事を考慮すると、近隣の学校での配布を考えている。送迎が可能であれば、遠方からでも参加はできる。

委員：学童の時間が朝7時30分から午後7時までとなっており、時間が長いと思う。

さくら子ども自然塾学童クラブ：確かに長いとは思いますが、共働き世帯が増えている現状を考えると仕方ない面はある。学童時間を有意義に過ごせるようなプログラムを用意している。

委員：学童の時間は、保護者の都合に合わせて調整は可能か。参加が15名を超えた場合はどうするのか。

さくら子ども自然塾学童クラブ：時間調整は可能である。また、スペースやスタッフの人員を考慮すると15名を超える参加受け入れは難しい。

委員：アレルギーを持った子供への対応はどのようにするのか。

さくら子ども自然塾学童クラブ：私のカフェでは卵と牛乳は一切使用していない。小麦粉は使用していないが、米粉への代用も考えている。アレルギーを引き起こす原因となるような食材はなるべく使わないようにしている。

委員：途中で子どもが外に遊びに行きたいと言った場合はどうするのか。また、学童に参加している子どもの友達が来た場合はどうするのか。

さくら子ども自然塾学童クラブ：安全上の問題があるので、外には行かせない。また、参加している子どもの友達が来た場合についても、受け入れは難しい。

委員長：学童保育の仕組みを踏まえずに、先進的なコンセプトでやるということに懸念を感じる。また、プログラムを詰め込むのではなく、子ども自身の時間を大事にするという考え方もある。学童保育の基本的な水準を踏まえた上で、必要な準備や企画をしているのか。

さくら子ども自然塾学童クラブ：これまでの経験上、実際に活動をしてみないと具体的な話になってこない。この事業を進めるにあたり、協力してくれる人を何名か確保できたので、今回の申請を行った。

委員：収支予算の支出に保険料が1万円とあるが、これで足りるのか。

さくら子ども自然塾学童クラブ：保険会社に確認した結果、1万円とした。

委員：病気になった場合等、子どもの安全をどのように確保するのか。

さくら子ども自然塾学童クラブ：私はプログラムには関わらずに、子ども全員を見守れる体制をとる予定である。子どもが急病になった場合も、すぐ病院へ連れて行ける体制を整えてある。

委員長：他に質問等がなければ、さくら子ども自然塾学童クラブの質疑応答は以上で終了する。

(2) 市民協働事業（市民提案型）の審議（評価・意見調整等）（非公開）

4. その他

- ・次回日程について

→第3回市民協働推進委員会については6月下旬～7月上旬を予定している。
審議事項は、上座・ユーカーリまちづくり協議会等の新規事業の審査を行う予定

・委員報酬の支払い日について

→6月上旬を予定

5. 閉会

委員長：以上で本日の委員会は終了とする。お疲れ様でした。

平成26年7月3日（木）

委員長	名和田 是彦
副委員長	宇田川 光三
議事録署名人	小林 眞智子